

令和7年度 市長との対話集会（松永地区）議事要旨

日時：令和7年9月9日（火） 19時00分～20時30分

場所：松永コミュニティセンター

参加者：38名

テーマ①：松永まちづくりデザイン計画・松永移住定住促進人口2割アップ計画

1 参加者からの主な意見

(1) 住まい・人口対策

- ・コミュニティセンターを拠点にしたまちづくりの継続を希望。
- ・住宅・アパート建設の促進により人口増を図るべき。住宅建設への補助制度の創設・強化。
- ・特定の地域が住宅建設誘導の対象外となっている現状の見直しを要望（農振農用地）。
- ・地域イベント運営に関する実務的支援を要望（例：参加者の交通手段＝バス代の補助）。

(2) 教育・子育て

- ・子育て世帯の流出抑制・転入促進のため、保育所機能の拡充、新設を含めた検討を要望。
- ・保育園の特色化（例：英語時間の導入等）と情報発信。

(3) 生活環境・安全

- ・生活動線（歩道・自転車道・通学路）の改善、外灯増設など防犯・安全対策を希望。
- ・鳥獣（イノシシ等）への不安。生活圏での出没対策の強化。

(4) 交通・移動

- ・バス本数が少ないため利用しにくい。
コストに配慮したオンデマンド交通（簡易的な乗合・配車）の導入検討。
- ・高齢者も利用できる移動手段の確立を希望。

(5) 商業・生活利便

- ・量販店等の不足。子ども連れでも買い物しやすい施設の誘致。
- ・産業団地稼働を見据え、従業員向けの飲食店・物販など生活施設の整備を提案。

(6) 産業・地域資源の活用

- ・地域の特色に根差したゾーニング（産業振興・教育・文化振興等）を進め、松永が選ばれる地区に。
- ・自然を活かした遊び場（キャンプ・木製アスレチック等）の整備。

(7) 情報発信

- ・行政だけでなく市民もSNS等で継続的に地域の魅力を発信すべき。
- ・松永かるた、モルック等の地域活動を通じた取り組みの発信拡大。

2 市長からの主な回答

(1) 住まい・人口対策

- ・人口増（2割アップ）は難易度が高いが、まずは「減らさない」ための居住誘導と子育て環境の質向上（保育の利便・特色化、住環境整備、遊び場整備）を重視。

(2) 教育・子育て

- ・子育て環境の質向上は重要。保育機能・教育環境の充実案は参考にし、可能な範囲で検討。

(3) 生活環境・安全

- ・生活道路の改善（外灯等）は安心に直結するため、要望を踏まえ警察と対応を検討していく。
- ・鳥獣（イノシシ等）への不安は認識。生活圏での安全確保の観点から関係部局と連携して対策を検討。

(4) 交通・移動

- ・既存バスの課題に対応するため、タクシー活用や市街地循環バスの実証事業の予算を9月議会に提案中。利用ニーズを把握しながら今後の制度設計を進める。

(5) 商業・生活利便

- ・産業団地エリアへの従業員向け飲食・物販の導入を企業誘致とセットで働きかける。
- ・生活利便の向上が企業進出意欲にも影響するため、情報収集とプランニングを継続。

(6) 産業・地域資源の活用

- ・「小浜にしかない強み」を核にブランド戦略を策定中。松永の固有資源の深掘りと質の向上を重視。
- ・企業依存の受け身型から、地域主体で強みを高めるまちづくりへ転換。
- ・自然を活かした遊び場整備（キャンプ・木製アスレチック等）の方向性に共感。

(7) 情報発信

- ・若い世代の SNS 発信を歓迎。市も広報を強化し、地域と連携して魅力を発信していく。
- ・松永かるた、モルック等の独自性ある活動は発信素材として有効である。

テーマ②：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

1 参加者からの主な意見

(1) 新幹線・計画進捗

- ・環境アセス公表・ルート決定後の進捗が見えにくく、再度の議論や情報共有を求める。
- ・新幹線開通まで長期（20～30年）の見通しに懸念。リニア時代との関係や開通時期の遅れを心配。

(2) まちづくりの方向性（地域資源の活用）

- ・食、歴史・文化財など既存の地域資源を活かしたまちづくりが重要。
- ・「当たり前」に感じている自然・暮らしの価値を見直し、発信すべき。

(3) 情報発信・プロモーション

- ・SNS等を活用した魅力発信の強化（行政任せでなく住民主体でも取り組むべき）。

(4) 若者・住民参画

- ・若年層や子どもを巻き込んだ活動・対話の場づくりを望む。

(5) 企業誘致・産業振興

- ・産業団地整備だけでなく、実際の企業誘致が不可欠。整備とセットで進めるべき。
- ・小浜の住環境（自然など）を生かした「住む場所」としての魅力訴求が必要。

2 市長からの主な回答

(1) 新幹線・計画進捗

- ・新幹線を前提に「どんなまちにするか」が重要。開通までを見据え、地域力を高める取組みを進める。

(2) まちづくりの方向性（地域資源の活用）

- ・食、歴史・文化など「小浜らしさ」を核に、住民が誇りを持てるまちづくりを推進。
- ・都市の模倣ではなく、限られた資源の中で住民の知恵を活かす「小浜らしい幸福な暮らし」を重視。
- ・議論にとどまらず、決断・実行のスピード感を重視。まちづくり・ブランド戦略を先行して進める。

(3) 情報発信・プロモーション

- ・住民が当たり前と思う価値にこそ力がある。市としても情報発信を強化。

(4) 若者・住民参画

- ・住民主体の対話と共創を促進。市長との対話集会以外でも地域内で対話の場を設け、若年層や子どもが積極的に参画できるようになれば地域の活性化に繋がる。

(5) 企業誘致・産業振興

- ・産業団地への企業アプローチを継続・強化。稼働開始を見込んだスケジュールで準備中。
- ・首都圏等への誘致活動を継続し、居住地としての魅力訴求とセットで進める。